様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：３４４５５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ１０８９０

研究課題名（和文）医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の不適切養育行動アセスメント指標の開発

研究課題名（英文）Developing an assessment index to examine inappropriate nurturing behaviors of parents of infants who need medical care be

研究代表者
楢木野　裕美（Naragino, Hiromi）

大阪信愛学院大学・看護学部看護学科・教授

研究者番号：９０２８５３２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の養育では医療的ケアの習得に着目されやすい。そこで、本研究は医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の不適切養育行動をホリスティックに捉えるアセスメント指標の開発を目的にする。研究方法は、尺度開発手法を参考に、医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親に関わる専門職への面接調査を実施し、不適切養育行動を挙げて指標原案を作成し、その表面妥当性・内容妥当性を検証し指標案を作成した。さらに専門職1020人を対象に指標案の信頼性・妥当性を検証した。322人を分析対象とし、4下位尺度20項目のアセスメント指標を作成し、概ね信頼性・妥当性は確認できた。今後は活用して精度を上げる必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の目的は、医療的ケアを要する乳幼児をもつ親に対して不適切養育をアセスメントする指標を開発する。医療的ケアを要する乳幼児をもつ親の養育では、医療的ケアの習得に着目されやすい。その現状から、子ども虐待予防・子どもの育ちへの視点を転換させること、医療機関・地域の専門職が、共通の指標で親の不適切養育をホリスティックに捉えることができるようになる指標であり、学術的意義がある。
　また、この親の不適切養育アセスメント指標を開発し、親子に関わる専門職共通の指標で親の抱える不適切養育の内実を捉えられる。養育支援の構築に繋がり、親子に関わる看護職のアセスメントの力を培うことに繋がることは社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：When studying nurturing behaviors among parents of infants who require medical care, it is easy to focus on the acquisition of medical care techniques. Accordingly, this study aimed to develop an assessment index that holistically captures inappropriate nurturing behaviors of parents of infants who need medical care for use by professionals in the community and medical institutions. The research method referenced techniques for scale development. First, inappropriate nurturing behaviors were selected from an interview survey with professionals who work with parents of infants who need medical care; a preliminary index was drafted; and the preliminary index’s face and content validity were verified to create the proposed index. Then, the index’s reliability and validity were verified with a sample of 1,020 professionals. Lastly, a four-subscale, 20-item assessment index was created with an analysis set of 322 individuals, and its general reliability and validity were confirmed.

研究分野：小児看護学

キーワード：医療的ケア児　不適切養育　アセスメント指標

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の研究背景

子育てを取り巻く環境や生活状況は厳しく、子ども虐待の増加をはじめとして、子育ての問題は親として育つ機会の不足が影響している。健康な乳幼児の養育であっても、子どもの世話不足、怒りながらの育児等が報告されている(笠原，2014)。一方、乳幼児に医療的ケアが必要な場合、親は疾患や医療的ケアの方法を心配するあまり疾患管理のみに関心を示して偏った養育にならざるを得ず、看護師はその養育に違和感を感じていた。

医療的ケアが必要な乳幼児には、成長発達の課題と疾病からの回復・病状をコントロールする疾患管理の課題がある。二重の課題を背負いつつ、病いを生きる乳幼児が育ちのプロセスを歩めるようにすることは子どもの権利を守ることになる。医療的ケアが必要な乳幼児の発達を支える看護に関する研究(池田，2019;楢木野，2011;小出2006)を見ると、看護師は、親としての危うさ、つまり“疾患”を通してのみ子どもを見ていると捉えているが親の養育力はとらえていなかった。そこで医療的ケアが必要な乳幼児への不適切養育行動を防ぎ、病いを生きる子どもの育ちを支えるため、ホリスティックに親の不適切養育を捉え、どのようにアセスメントしていくのかが課題である。

2．研究目的

本研究の目的は、調査1～3により医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親に対して不適切養育行動をアセスメントする指標を開発することである。

調査１: 医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の養育行動を、彼らに関わる医療者がどのような行動を不適切と捉えているかを明らかにする。

調査２: 指標原案の表面妥当性・内容妥当性を検証し、指標案を作成する。

調査３: 指標案の信頼性・妥当性を検証する。

3．研究の方法

尺度開発の手法を調査1～3を実施する。研究実施に当たり、所属機関、要請に応じて研究協力機関の研究倫理審査を受けて実施した。

1) 調査１

(1) 研究対象者 ： 医療的ケアが必要な乳幼児、その親に関わる小児病棟勤務の看護師、小児科医、保育士、訪問看護師、保健師、各 4 人計 20 人である。

(2) 研究方法 ： 面接ガイドを基に半構造化面接を 40 分程度、1 回実施した。医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親のどんな行動を不適切と捉えているかである。分析は面接内容から逐語録を作成し、親の不適切な養育行動を抽出し、コード、サブカテゴリー、カテゴリー化を行った。

2) 調査２

(1) 研究対象者 ： 医療的ケアが必要な乳幼児と親に関わる専門職として看護師・訪問看護師・保健師計 6 名程度、研究者 6 人程度、総計 12 人程度である。

(2) 研究方法 ： 郵送法による無記名の自記式質問紙調査（40 分程度）で、調査内容は、属性、指標原案の項目について、下位概念の妥当性、各概念と質問項目の整合性、表現の明確化、回答のしやすさ、他に必要な質問項目への意見、内容妥当性指数の I-CVI の測定である。分析は、指標原案の各概念と質問項目の修正・精選を行なう。I-CVI 得点が 0.78 以上を示す項目を採用した。

3) 調査３

(1) 研究対象者 ： 地域医療支援病院は 90 施設、小児専門病院 10 施設に研究協力を依頼し、46 施設から研究同意を得た。また訪問看護ステーション、保健センター52 施設に研究協力を依頼し、23 施設から研究同意を得た。研究対象者は、69 施設 1020 人であった。

(2) 研究方法 ： 医療機関、訪問看護ステーション、保健センターの責任者に研究協力の同意を得て、研究対象者に自記式質問紙を配布し郵送法にて回収した。調査内容は指標案、属性で所要時間は 20 分程度である。分析方法は、項目分析(回答欠損率、平均値、標準偏差等の基礎統計量、ヒストグラム、GP 分析、I-R 相関)、信頼性の検討としてクロンバックの α 係数、妥当性の検討として構成概念妥当性は、因子を抽出する探索型因子分析を行い、抽出した因子を潜在変数、それに属する項目を観測変数としてモデルを作成し、共分散構造分析を用いて確

認的因子分析を行った。

4．研究成果

1)調査１

研究参加者は、看護師、小児科医、保育士、訪問看護師、保健師各 4 人の計 20 人であった。

医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の不適切養育行動について５カテゴリー、47 サブカテゴリーを抽出した。【基本的な養育知識・技術の乏しさに基づく養育行動】は 9 サブカテゴリー、【医療的ケアの不十分な習得と子どもの健康に悪影響を及ぼす懸念に基づく養育行動】は 10 サブカテゴリー、【子どもへの情緒的な関わりの少ない養育行動】は 8 サブカテゴリー、【親の社会との繋がりをもつ力の弱さに基づく養育行動】は 9 サブカテゴリー、【親の自分を受け入れる難しさに基づく養育行動】は 10 サブカテゴリーで構成されていた。

J.Belsky のモデルにおいて、親の養育行動に影響する要因には、親の個人的な心理的資源、子どもの特徴・個性、ストレスやサポートの要因が挙げられる。医療者は、子どもの特徴・個性と考えられる、医療的ケアが必要な乳幼児にとって、疾患管理をしながら子どもの健康を支えることを懸念する養育を、不適切養育ととらえ、子どもの養育全般に関わって親の養育行動を捉えていたと考える。

本調査結果、文献検討結果を基に 5 下位概念、90 項目の指標原案を作成した。

2)調査２

研究参加者は、看護師 3 人、訪問看護師 2 人、保健師計 2 人、小児看護学の研究者 6 人の計 13 人であった。

表面妥当性の検証では、指標原案項目の表現、概念に対する 52 件の意見を得た。分かり難い表現や意味がいくつかにとれる表現は修正した。また項目間で紛らわしい表現は統合させた。内容妥当性の検証では、I-CVI は 0.4～0.7 で、I-CVI の削除基準 0.78 未満の項目は 23 項目であった。

以上の結果を考察すると、表面妥当性では指標原案の項目を「親は」を主語として、親のとる不適切な養育行動であるように表現の見直しをした。また表現を分かりやすく修正をする必要があった。内容妥当性では、I-CVI が 0.78 以上の項目は 67 項目であり、これは医療的ケアが必要なに乳幼児をもつ親の不適切養育行動について、専門職間で共通理解ができる項目であることを示していた。

医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の不適切養育行動アセスメント指標原案の表面妥当性・内的妥当性を確保でき、5 概念 67 項目の指標案を作成した。

3)調査３

調査用紙配布数は 1020 部、回収数は 375 部（回収率 36.8%）、有効回答数は 322 部(有効回答率 85.9%)であった。属性項目に欠損のある回答 20 部、指標案の項目に 1 項目以上の欠損のある回答 33 部であり、53 部を欠損回答とした。

(1) 研究対象者の属性

分析対象者 322 人の属性は、医療機関 236 人(73.3%)、訪問看護ステーション 45 人(14.0%)、保健センター41 人（12.7%）であった。医療機関では小児科病棟所属、経験年数は、0～2 年及び 9 年以上の看護職がそれぞれ 30%以上を占めた。

(2)項目分析

指標案 67 項目について、天井効果は 8 項目、フロア効果は 7 項目が該当した。歪度では該当項目はなく、尖度は 2 項目が該当した。I-T 相関では該当項目はなかった。GP 分析では、67 項目の得点上位群と下位群で t 検定の結果、有意差を認めた。また指標案項目の項目間相関について、0.7 以上の相関を示したのは 9 ペアであったが、いずれの項目も、内容妥当性・表面妥当性の検証時には類似という指摘がなかった。しかし項目の内容を再度検討した。

以上のことから、項目分析では 26 項目が削除項目となった。

(3)探索的因子分析

指標 41 項目について、主因子法による因子抽出法、Promax 回転によるによる因子分析を行った結果、4 因子 20 項目であった。

第Ⅰ因子は[乳幼児の養育に関わる不適切さ]と命名し 5 項目で構成された。第Ⅱ因子は[医

療的ケア児の健康管理に関わる不適切さ]と命名し、6 項目で構成された。第Ⅲ因子は[子どもへの情緒的対応に関わる不適切さ]と命名し、5 項目で構成された。第Ⅳ因子は[親と社会の繋がりに関わる不適切さ]と命名し、4 項目で構成された。

指標案の 5 つの下位概念と比較すると、指標案の[基本的な養育知識・技術の不適切さ]の項目は指標構成後の[乳幼児の養育に関わる不適切さ]に、指標案の[医療的ケアの習得と子どもへのケアの不適切さ]の項目は、指標構成後の[医療的ケア児の健康管理に関わる不適切さ]、指標案の[子どもへの情緒的な関わりの不適切さ]の項目は、指標構成後の[子どもへの情緒的対応に関わる不適切さ]になった。指標案の[親の社会との繋がりをもつ力の弱さ]と[親の自分を受け入れる難しさ]の一部は、指標構成後の[親と社会の繋がりに関わる不適切さ]になった。[親の自分を受け入れる難しさ]の項目のほとんどが項目分析で削除項目になった。

(4)信頼性の検証

指標の合計と下位概念のクロンバックのα係数を算出した。指標合計は、α＝0.919、[乳幼児の養育に関わる不適切さ] のα係数は 0.891、[医療的ケア児の健康管理に関わる不適切さ]のα係数は 0.915、[子どもへの情緒的対応に関わる不適切さ] のα係数は 0.934、[親と社会の繋がりに関わる不適切さ] のα係数は 0.926 であった。

また指標 20 項目の得点について、偶数項目の合計と奇数項目の合計の相関関係をみる折半法を行ったところ、信頼性係数は 0.918 であった。

(5)妥当性の検証

探索的因子分析により、医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の不適切養育行動アセスメント指標の項目構成を行い、因子的妥当性を確保した。

構成概念妥当性の検証のため確認的因子分析を行った。モデル適合は、χ^2＝572.3、CFI＝0.936、GFI＝0.896、AGFI＝0.836、RMSEA＝0.069 であった。

4)医療的ケアが必要な乳幼児を持つ親の不適切養育行動アセスメント指標の試用

便宜的に抽出した医療機関 2 施設の小児科病棟に勤務する看護師、訪問看護ステーション 1 施設の訪問看護師の計 5 人に、指標を約 1 か月間の使用期間を設定した。

その結果、医療的ケアが必要な乳幼児の親とのかかわりの中で、養育状況で気になることがあった場合や不適切養育行動ととらえた際に、指標を用いてアセスメントし、機関内や機関外とのカンファレンス時に親の養育状況の情報提供・情報共有を行っていた。また、親の養育行動についてどんな行動を捉えていくかを知る手掛かりになること、養育状況を意図的に観察しようとすることに繋がること、一方では、指標は 6 段階でチェックするが、その段階の判断の難しさがあること等の意見がだされ、指標は、医療的ケアの種類を考慮していく必要がないのか、引き続いて検討していく必要があった。

作成した指標は以下のとおりである。

【医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の不適切養育行動アセスメント指標】

使用目的 ： 医療的ケアが必要な乳幼児をもつ親の、乳幼児に対する養育行動が不適切養育行動であるかをアセスメントするための指標である。

対 象 者 ： 医療的ケアが必要な乳幼児をケアする医療者である

使用方法 ： 自記式質問紙である

得点範囲 ： 指標合計得点範囲　20～120 点

[乳幼児の養育に関わる不適切さ]	5 項目	5～30 点
[医療的ケア児の健康管理に関わる不適切さ]	6 項目	6～36 点
[子どもへの情緒的対応に関わる不適切さ]	5 項目	5～30 点
[親と社会の繋がりに関わる不適切さ]	4 項目	4～24 点

文献

藤永保(2009):「気になる子」にどう向き合うか-子育ての曲がり角-.フレーベル,東京.
郷間英世，川越奈津子，宮地知美，他(2003).幼児期の「気になる養育」
平原真紀(2015):医療的ケアのある子どもの子育て支援，チャイルドヘルス，18(12)，20-22.
今井充子,常盤陽子(2011):我が国による子育て支援と課題に関する文献検討.北日本看護学会

誌,9(1),37-43.
池田祥碩，松森俊祐，前川義弘，他(2019).医療的ケア児・者の在宅生活の満足度と問題点に関する養育者を対象としたインタビュー調査.脳と発達，51，354.
井上正隆(2017).12 章共分散構造分析.山田覚，井上正隆編著，看護学生・看護職が知りたい統計学-問題解決への道しるべ-，(p225-240)，東京図書.
石井京子(2002).質問紙調査とはどのようにするのか.石井京子，多尾清子編著，ナースのための質問紙調査とデータ分析　第 2 版(p22-25)，医学書院.
笠原麻里(2014):不適切養育と関連する親のリスク要因について.子どもの虐待とネグレクト,16(1),44-49.
小出扶美子，宮谷恵，小宮山博美 他(2006).付き添い入院の母親の養育態度と小児看護師から見た母親の養育態度の違いについての検討.聖隷ｸﾘｽﾄﾌｧｰ大学看護学部紀要，14，83-94.
村上宜寛(2006).心理尺度のつくり方.北大路書房.
楢木野裕美,岡崎裕子,小代仁美,川勝和子,武田善美(2011):慢性疾患を抱える乳幼児の親の「気になる養育」の様相.大阪府立大学紀要、22(1)，59-65.
生地新(2020):不適切養育を受けた子どもたちへの心理的支援.ストレス科学研究，35，1-6.
小塩真司(2020):第 7 章 Excel+Amos 活用マニュアル.小塩真司著,研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析(p284)，東京図書.
佐藤幸子,遠藤恵子(2006):保育士が認識している「気になる育児」に関する検討.北関東医学誌,61,377-386.
斎藤詩織,楢木野裕美(2016):医療的ケアが必要になった幼児の発達を支えるために看護師が認識している看護．日本小児看護学会誌、第 26 巻 3 号.
塩川宏郷(2006)：保護者の気になる養育態度，チャイルドヘルス，9(4)，39-41.
杉山登志郎(2010):小児慢性疾患における心の臨床ニードそだちの科学.日本評論社,15,62-65.
戸田須恵子(2006):母親の養育態度と幼児の自己制御機能及び社会的行動との関係について.北海道教育大学釧路校研究紀要，38，59-69.
横関恵美子，小川佳代(2018).医療的ケアが必要な子供を在宅で養育する家族を支援する専門職者の関わり.日本看護研究学会雑誌，41(3)，503.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 楢木野裕美、岡崎裕子
２．発表標題 医療者が捉えた医療的ケアを要する乳幼児をもつ親の不適切養育行動
３．学会等名 日本小児看護学会第32回学術集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡崎　裕子 (Okazaki　Yuko) (00382250)	大阪信愛学院大学・看護学部・講師 (24403)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関